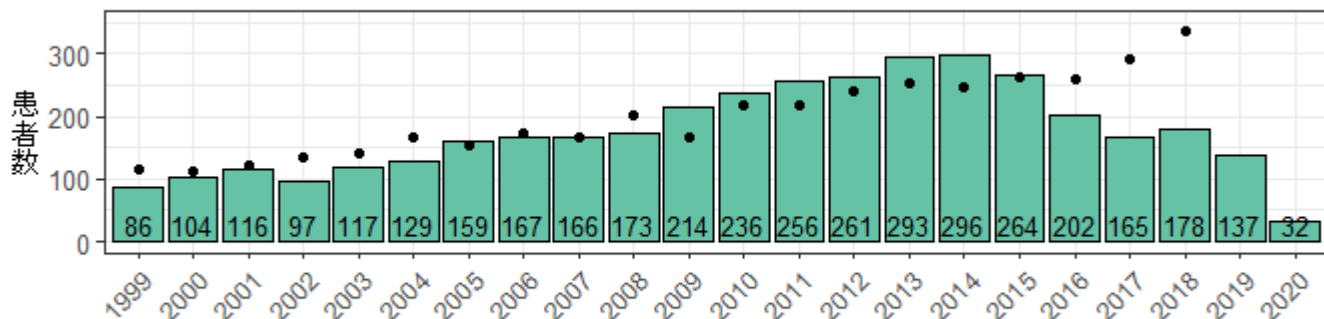


# 全国サーベイランスに基づくわが国の プリオン病の疫学像(1999年～2020年)

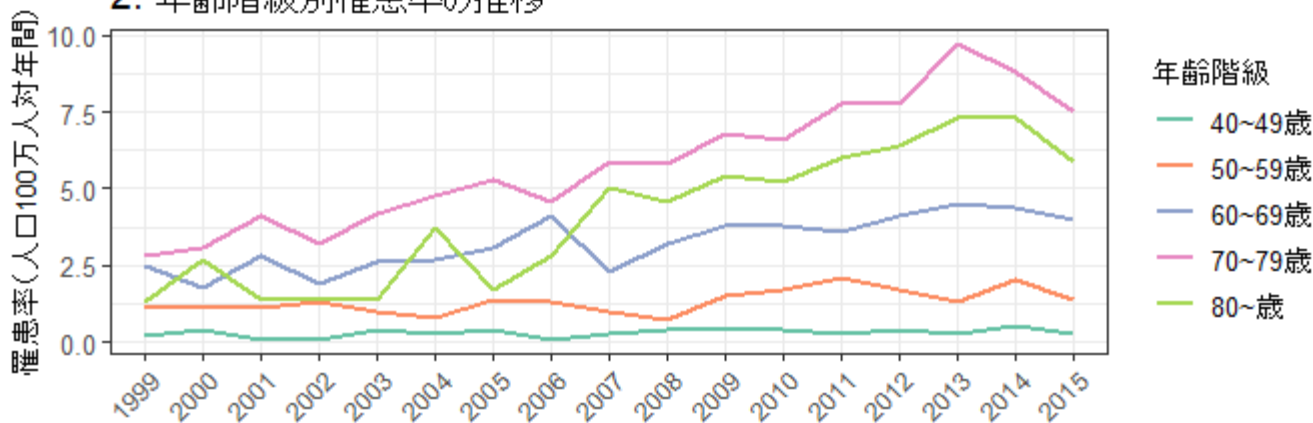
研究分担者: 自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門 阿江 竜介

## 1. サーベイランス登録患者数と人口動態調査によるプリオン病死亡数の推移



1) ICD-10のA81.0(クロイツフェルト・ヤコブ病), A81.8(中枢神経系のその他の非定型ウィルス感染症)の合計をプリオン病と定義した。グラフ内の黒点が人口動態調査によるプリオン病の死亡者数を表す。  
2) グラフ内の数値はサーベイランスに登録されている各暦年に発症したプリオン病の総数である。

## 2. 年齢階級別罹患率の推移



## 解 説

1. 発病者数と死亡者数の年次推移を比較すると2005年頃から発病者数と死亡者数の差が小さくなってきており、本サーベイランスの患者捕捉率が十分に高いことを示している。プリオン病の死亡者数は年々増加しており、発病者数も後を追って増加していくと予想される。
2. 年齢階級別罹患率は40歳代と50歳代では概ね横ばいなのに対し、高齢者層(60歳以上)では上昇する傾向が認められた。